

地名と昔話を用いた等高線読図による防災教育プログラムの提案
 ー川崎市高津区を事例としてー

21018021 篠原理恵
 指導者 葉袋 奈美子 准教授

住教育 防災 災害伝承
 古地名 地域学習 高津区

1. 研究の目的と背景

川崎市高津区に代表されるような宅地開発が急激に進み、新住民がその地域固有の危険性を知り得ないままに住み続けているという現状がある。又、地域について学ぶ小学校課程においても防災教育では消防法で定められた避難訓練以外は明確な指標や方法は示されておらず、各学校の判断に委ねられている現状がある。本研究では地域と防災を結び付けることが効果的な防災教育につながると考え小学校課程における地域に根差した防災教育プログラムを提案し児童を通して新住民が地域に関わるきっかけを作ると共に、一人一人が災害に対峙した際に適切な判断を下せる「生きる力」を育むことを目的とする。

2. 社会科における防災教育の可能性

2-1 等高線の読図

小学校学習指導要領社会科の第4学年で扱う内容として等高線の読図の単元がある。地域固有の災害を知る上で地形を捉えることは重要であり身近な地域を取り扱うことで自らの感覚として等高線と地形の関係を捉えると共に地形と災害発生の関係性を学ぶことができる単元といえる。

2-2 地域学習

第3, 4 学年での社会科における大部分を占める地域学習においては地域資料としての地域学習用副読本が使用されることが多い。高津区内小学校においても各校が独自に地域資料として作成している。地域固有の自然や歴史などを学ぶことができる地域学習は学科で学習した内容を身近な地域で応用することができ、地域と防災をつなぐことができる単元といえる。

3. 地域学習用副読本の分析

高津区内小学校の地域学習用副読本において地域と防災についての情報が提供されているかを分析したところ周辺の自然環境の紹介や地域で働く人々の紹介など普遍的な地域学習に留まり各地域の地形特性や災害履歴については触れられていなかった。また等高線の読図を身近な地域で応用するなど学科科目での学習が地域学習で応用されていないことがわかった。このことから学科科目と関連付けて学習ができる防災プログラムを考案する。

4. 高津区の災害履歴と災害伝承方法

防災プログラムの考案にむけて高津区の災害履歴を辿る。過去 10 年間の災害履歴をみてみると、特定の地域に水害が発生しやすいことがわかる。崖崩れにおいては 10 年間で区内の様々な地域で発生しており、住民が危険個所を把握し注意を払う必要がある。

表 1 過去 10 年間における高津区の災害履歴

年度	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	合計
高津区 床上	2	6	0	0	20	0	0	2	6	0	36
床上	6	25	0	0	16	2	0	0	3	0	52
被害町名	末長・久末	久末			溝口・諏訪	久末			久地	久末	

年度	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	合計
高津区 崖崩れ	1	1	1	0	0	2	0	0	0	0	5
被害町名	蟹ヶ谷	千年	新作			末長・堤ヶ谷					

災害履歴の伝承方法としては行政の発信する最近の記録以外にも古地図や古地名、民話などが存在する。図 1 は川崎物語集に登場した地域であり度々この田畑で内水氾濫が起きていたと記載されている。





図 1 千年地区の土地利用の変化

住居表示の実施率が低い高津区では古地名が多く残されている。地名には子孫への災害伝承という側面があり高津区内に残る古い地名から地形や災害に関する地名を抽出し分類したところ、多摩川氾濫低地エリアには外水氾濫に関する地名、下末吉台地エリアには崖崩れに関する地名、南東湿地帯エリアには内水氾濫に関する地名が集中的にみられた。過去の災害履歴と災害に関する古地名が合致する地域も多くみられ、過去の災害履歴と古地名には密接な関係があることがわかった。

表 2 高津区における地名の分類と割合

地名の種類	地名に関連する自然	予想できる災害要因	例	地名全体での割合
水の地名	川・海・水	外水氾濫	コーチ	21%
谷の地名	谷・窪地・	内水氾濫	ヤ・ヤト・クボ	46%
山の地名	山・高台・崖	崖崩れ	ベッソ・サキ・ヒナタ・ヒカゲ	33%

表 3 高津区に伝わる災害にまつわる民話

災害	物語	+概要	地図 (昭和 37 年)
外水氾濫	お千代の池	多摩川の氾濫のあとにできた水たまりのような池に美しいお千代という娘が飛び込んで二度と浮かんでこなかった。	 久地
内水氾濫	深い深い田んぼ	今の前田地区あたりは土地が低く底なし沼のようなところがあった。農家の娘が浸水時に田船を出して稲を刈りに行ったまま行方不明になった。	 前田耕地
崖崩れ	大蓮寺の大日如来	崖崩れで堂宇が土砂に埋没した際、大日如来が東方十有余間のところへ自ら動座し難を逃れていた為、そこに再建した。	 桃ノ園

5. プログラムの内容

高津区の地形的特徴をとらえ、災害と地形との関係性を学ぶために、災害伝承方法としての古地名と昔話をを用いた小学校第 4 学年を対象とする「地名と昔話から災害の歴史を知ろうー等高線の読図作業と共にー」をプログラムとして提案する。

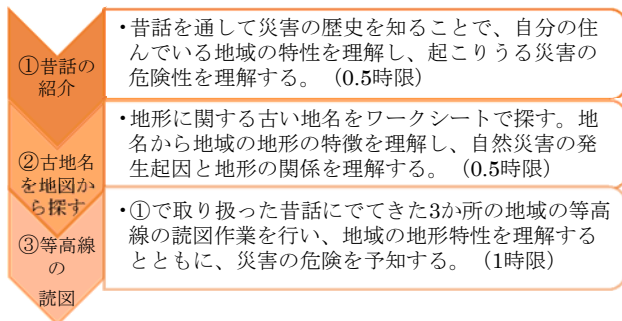


図 1 プログラムの流れとねらい

① 昔話の紹介

「川崎物語集」に記載されている災害にまつわる昔話三編を読む。「お千代の池」では外水氾濫、「深い深い田んぼのはなし」では内水氾濫、「大蓮寺の大日如来」では崖崩れを取り扱う。(より地域に密着したプログラムとするために、北部、中部、南部のエリアごとに使用する物語とワークシートのエリアを選択する。)

② 古地名を地図から探す

昔話に登場した場所と古地名がプロットされた白地図のワークシートを用いて地形ごとに分類された地名を探して色を塗り分けることで視覚的に地形をとらえる。地名

お千代の池

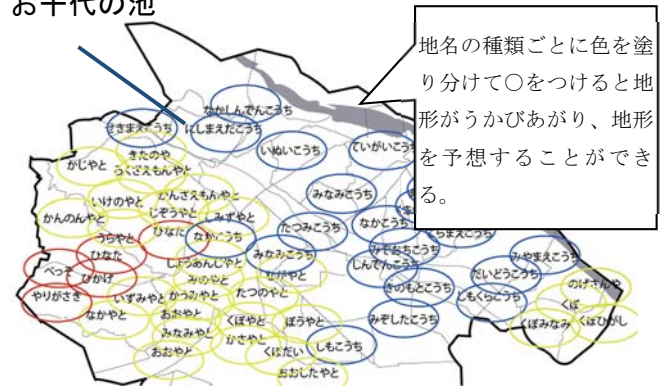


図 2 ②で使用するワークシート教材

は高津区における古地名外水氾濫・内水氾濫・崖崩れの発生活因となりえる地名を抽出し、三つに分類した。

③ 等高線の読図

昔話にでてきた場所の地形を確かめるために高津区全体の地形図を見て等高線や土地利用図から地形の特徴を捉え①②で得た情報を落とし込むことができる。

お千代の池



図 3 ③で使用する教材

6. おわりに

考案したプログラムは学科科目と関連させて防災教育を行うことが可能であり視覚的に地形を捉えられる魅力的な教材であると小学校教員から評価を得られた。また近年の被害状況と古地名や民話で伝承されている災害履歴との整合性が確認できたことから、古地名や民話は今後の防災教育や地域防災として効果的な材料となり得るといことがわかった。今後さらなる展開が望まれる防災教育において、地域学習を重点的に行う小学校過程で自分の住む地域を多角的に取り上げ、さまざまな教科に関連付けて活用しながら、それぞれの地域に合わせた防災教育プログラムの開発と展開が必要になると考える。

主な参考文献)「新学習指導要領・生きる力」2012 文部科学省 「あぶない地名」2012 小川豊 「川崎物語集」1992 川崎の民話調査団、川崎市民ミュージアム